



周東中校区の学校の取組や小小・小中連携の様子をお伝えする院生だよりです！

R 8 . 5 . 1 1  
文責：高森小学校  
亀井陽子

今年度も、周東中学校区の小中一貫教育の取組を中心に、お便りを発行してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 小中一貫教育合同学習がありました

4月30日(木)8:30~10:35、周東中学校において「小中一貫教育合同学習」を実施しました。(参加者：川上小6年1名、修成小5・6年7名、そお小5・6年16名、高森小6年41名、米川小8名)

昨年度までは、高森小学校に周東中学校の先生をお招きし、5つの小学校の児童による集団行動を実施していました。今年度は、「授業でつながる小中一貫教育」というコンセプトのもと、中学校を会場として実施しました。内容も、集団行動に加えて授業参観および算数・数学科の授業体験を取り入れ、2校時分の学習として構成しました。

オリエンテーションでは、次の3点をめあてとして児童に共有しました。

- ・協働して動きをそろえること
- ・あこがれの先輩を見つけること(めざすゴールを見つけること)
- ・小学校と中学校のつながりを見つけること(系統性に気がつくこと)

活動後、「あこがれ」や「つながり」を見つけることができた児童に挙手を求めたところ、多くの児童の手が挙がりました。このことから、児童が「めざす姿」や「学びの系統性」を意識しながら活動に取り組んでいた様子が見られました。

集団行動では、中学2年生が指導役となり、基礎的な動きを小学生に教えました。

はじめに、中学2年生が手本を示しました。「右向け、右」「回れ、右」の号令に合わせて動きをそろえる姿や、大きな声で自己紹介を行う姿からは、集団としてのまとまりが感じられ、小学生はその様子を真剣に見つめ、意欲的に反応していました。

続いて、小学生が二つのグループに分かれ、制限時間内に取り組みました。中学生は一人ひとりに声をかけながら関わり、小学生もそれに応えようと主体的に練習する姿が見られました。その後、グループごとに成果を発表しました。

中学生が自分たちのために熱心に関わる姿に触れる中で、小学生は感謝や喜びを実感するとともに、中学生へのあこがれをもつ様子が見られました。

### 集団行動



## 授業参観



授業参観では、中学1年生と中学3年生の授業を、廊下から参観させていただきました。

中学生と授業を担当されている先生方のやり取りや、落ち着いて学習に取り組む姿に触れる中で、小学生は1年後・2年後の自分たちの姿を具体的にイメージする様子が見られました。

## 授業体験



周東中学校の江口先生に算数科と数学科をつなぐ授業を実施していただきました。

授業では、整数・分数・小数のいわゆる「3数」を取り上げ、小学校と中学校における学習内容や扱い方の違いについてご指導いただきました。

「帯分数は中学校ではほとんど用いないこと」「数学では小数を基本的に用いず、分数で計算すること」などの説明に対して、子どもたちからは驚きの声が上がりました。あわせて、「小学校では、生活に即した場面の中で量感を捉えるために帯分数を扱う一方で、中学校では計算の正確さや効率を重視するため帯分数を用いないこと」「小数は、理科などの他教科では用いられるものの、数学では分数で処理することが多いこと」について分かりやすく説明していただきました。さらに、「小学校で量感や概念をしっかり理解しておくことが、中学校での学習につながる」というメッセージを通して、小学校から中学校への学びの接続について具体的に示していただきました。小学生にとって、現在の学習と中学校での学びとのつながりを実感する機会となりました。教員にとっても、算数科と数学科の系統性を児童に実感させるとともに、小中接続の意義を共有する機会となりました。

小学校の先生方には、お忙しい中児童用のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。教職員用のアンケートは、今回の合同学習に関わっていただいた先生方をお願いしております。児童の変容を含めた内容となっておりますので、教職員用のアンケートの期限を5月中としております。よろしくお願いいたします。

児童用アンケートの結果は、次号でお知らせいたします。